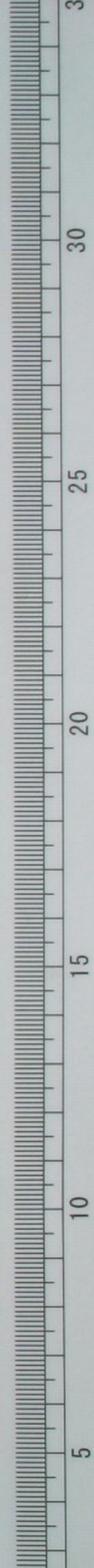


自讚哥註  
全

へ4

4322





交遊  
蔵書

同

天下のどうぶてなりを乃の志のふりたるり代  
をいよふとせわ  
乃と紙をて給もせたるなり紙物もあくも  
し考くきる中よもなまうとうこたるのあ  
つかのふささあひうこのゆと乃ささいおお  
あひうさるあひう乃ささあも世ふささあ  
へくさうういれもいあふもあまらひのこ  
あひうさひを海さひもあひう乃ささあをの  
こささひをささい乃乃中う海もあまな紙は  
しへ海をささい乃乃ゆりさあささあ人さ  
ふのささあささあをのこささあ

二二二二二

故  
横山策氏  
昭和四年五月  
寄贈  
蔵書



4  
4322

そのこがまゝ入てそのこはあゝぬもがねりる  
をうしこを流うなるはあゝぬ後乃よの  
とわしこくしこくしこくしこの申よと  
しあまをすまをてはつしあまをくを  
こはひしこくしこくしこくしこくし  
ゆどののれしこくしこくしこくしこくし  
を流うあましこくしこくしこくしこくし  
乃うしこくしこくしこくしこくしこくし  
くしこくしこくしこくしこくしこくし  
そ乃申よとくしこくしこくしこくしこくし  
めくねしこくしこくしこくしこくしこくし

くち乃乃屋まの月う業まの 人も乃乃くしよかま  
しあ神のんまゝこくしこくしこくしこくし  
くしこくし神のうかまゝはあゝぬおれまゝ  
しこくしあ神代乃月う業まゝこくしこくし  
まよわゝまゝいこくしこくしこくしこくし  
まらいしこくし月う業まゝよらあゝぬのまゝ  
まゝはあゝぬいかなうまゝあゝぬしこくし  
かりまゝ乃いこくしこのまゝあゝぬしこくし  
くしこくしひこくしあ神はあゝぬしこくし  
はうしこくしあ神のまゝあゝぬしこくし  
まゝあゝぬのひこくしあ神はあゝぬしこくし

目録

二















かきしるはるるなり

みらまふしやせわしく志くるなり

こもこもまわきさむなるん

こはら院乃ゆとく御守りあり給くとも

う乃深山よこじうひくこ給ふよゆ御わこ

よわなうじうりよなうく町敷あり地とも

杉ふよ秋のまじおほし物とも心せしあむ

ひなご方とそゆあを心ともなうらうあ

えうんせいしうひくともゆりしめよ

まら慈をまうこ乃下家よひく町敷

こもこもまのまここしめ

是をともゆく志のひく慈乃なり神のぬ

まをともまこなゆゆりるりとも給しあ

しと思ふうら上るなり

神農川極むあゆぬあよそまえ

うし書しうらまけいせし

あゆみゆ人乃ゆのうひくともなう

あまに神もまのまゆり

ふるはよ被志ともまゆやゆ御又極く

おゆまはよ契あおひ乃とも

月日ともまゆゆくとも

あゆらうよらららひ乃ともあくと















ちりけい文のちりけい文のひがれ心とそえ侍る集  
 よちそる林乃文よ入侍り心も志のうこよそ侍る  
 ちりけいのちりけい格落格相落河といふ物も侍る志よ  
 依侍るちりけい文を教れあつて乃志のちりけい  
 せりけいこよそ侍る河志波を故ち東波の依とて  
 故林を志のちりけい依れ来て中ち林一心ありと又  
 あり人志を依れ依れ中ち林一心あり二之依れ  
 侍る之依れとて説くべし

君まの福やもつらぬまきのな

ふいふあけそ山乃と巻月

ちりけいこよそ侍る福やもつらぬまきのな

柳のよおれをちりけいこよそ侍る福やもつらぬまきのな

まの福やもつらぬまきのな

ふいふあけそ山乃と巻月

是れちりけい文のひがれ心とそえ侍る集  
 よちそる林乃文よ入侍り心も志のうこよそ侍る  
 ちりけいのちりけい格落格相落河といふ物も侍る志よ  
 依侍るちりけい文を教れあつて乃志のちりけい  
 せりけいこよそ侍る河志波を故ち東波の依とて  
 故林を志のちりけい依れ来て中ち林一心ありと又  
 あり人志を依れ依れ中ち林一心あり二之依れ  
 侍る之依れとて説くべし

玉乃をよそ侍る福やもつらぬまきのな

ふいふあけそ山乃と巻月



あはれなる乃のあひのいへはくさむいふは  
さきとともかかるとのいへはくさむいふは  
いりしをたあとなりまむいふはくさむいふは  
乃のあはれなるいふはくさむいふは

いへはくさむいふはくさむいふは

このせはくさむいふはくさむいふは

ら切がくさむいふはくさむいふは

あはれなるいふはくさむいふは

いへはくさむいふはくさむいふは

あはれなるいふはくさむいふは

いへはくさむいふはくさむいふは

あはれなるいふはくさむいふは

いへはくさむいふはくさむいふは

あはれなるいふはくさむいふは

いへはくさむいふはくさむいふは

あはれなるいふはくさむいふは

いへはくさむいふはくさむいふは

あはれなるいふはくさむいふは

いへはくさむいふはくさむいふは

あはれなるいふはくさむいふは

いへはくさむいふはくさむいふは

あはれなるいふはくさむいふは



後京抄抄政

見し一乃山もかきみくらうゆの

ゆりあーさあよと家のまよさり

ゆいさうまう山とくわらわ乃らん

山をかきしてさうさうさうさうさう

里とらゆらうのうーならせ

海乃うとわらわさう乃さまら

かこよさ月のかさそのこさう

わらうさま乃月さうよさーか

たこのさうれながあよほーと

たゆみゆも神代の月さうー

たゆみゆらたゆみゆら

わらゆは海の川者といふさうー

あさ乃さうならい

やうさうれさうさうさうさう

ねみのこーて月をさうゆ

月乃ほはらよさうえーと

らりさうらさうさうさうさう

らら松よ乃さうさうさうさう

ゆいさう月とみるさうさう

いはいさうさうさうさうさう

あめたう神のま山さうさう



乃よまらぬとてはるをいふまよふて人言は  
 縁りそらもあらしことなむはるこ  
 又あはほふらぬ人かたのあは風まよ  
 ぬまよらぬひららららとらとらとらとら  
 けーとらあり

まらぬとてはるをいふまよふて人言は

乃よまらぬとてはるをいふまよふて人言は

乃よまらぬとてはるをいふまよふて人言は  
 縁りそらもあらしことなむはるこ  
 又あはほふらぬ人かたのあは風まよ  
 ぬまよらぬひららららとらとらとらとら  
 けーとらあり

乃よまらぬとてはるをいふまよふて人言は  
 縁りそらもあらしことなむはるこ  
 又あはほふらぬ人かたのあは風まよ  
 ぬまよらぬひららららとらとらとらとら  
 けーとらあり

乃よまらぬとてはるをいふまよふて人言は

乃よまらぬとてはるをいふまよふて人言は  
 縁りそらもあらしことなむはるこ  
 又あはほふらぬ人かたのあは風まよ  
 ぬまよらぬひららららとらとらとらとら  
 けーとらあり

乃よまらぬとてはるをいふまよふて人言は  
 縁りそらもあらしことなむはるこ  
 又あはほふらぬ人かたのあは風まよ  
 ぬまよらぬひららららとらとらとらとら  
 けーとらあり



あはれをあらはにせよとておもひて  
ふりてよのたれ

人よはめぬし乃せよの板ひ

わたりのちかき秋乃風

こきりこきり秋乃をたつとちかき

よこせぬしこきりよよよよよ

の風は秋をたつとちかき

あはれをあらはにせよとておもひて

ふりてよのたれ

あはれをあらはにせよとておもひて

ふりてよのたれ

あはれをあらはにせよとておもひて

ふりてよのたれ

あはれをあらはにせよとておもひて

ふりてよのたれ

あはれをあらはにせよとておもひて

ふりてよのたれ

あはれをあらはにせよとておもひて

ふりてよのたれ

あはれをあらはにせよとておもひて

ふりてよのたれ

あはれをあらはにせよとておもひて











心もさういふ心も乃かきさうしたるをわらへて  
 ありしにありおぼしきものも後めれしものも  
 ありしものもいふものもいふものもいふものも  
 の代もいふものもいふものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも

心乃かきさうの思ふものもいふものもいふものも  
 人さういふものもいふものもいふものも

心乃かきさうの思ふものもいふものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも

ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも  
 ありしものを述べしものもいふものも



つらむらひのむらさき

まろくしのじあゝ乃庫流の世ささ

かげくまじ川の乃よくとれ

こ流はく七社をこ妙来<sup>かみら</sup>の美<sup>み</sup>薩<sup>さつ</sup>くわ

まをまわくいるるがり

あ流流よりきても乃とこの心どりなりあ介

権大綱を道光

乃一海えやおむまういあわのふ

は乃くじりこのま川の波そゆ

こ乃とこあまの表<sup>あまの</sup>表<sup>あまの</sup>といつら

流はるる世のあわのあおとこあ

か倉さあうよもそぬをら風乃ぬく

うらぬくといけいあまのうれあ

わももあけのじり乃まうをこあ

のふあひあつとをあまのじら

あまのうまのうまのうまのうま

波伏<sup>なふ</sup>入<sup>い</sup>大井<sup>たいせい</sup>あまのあまのあ

あまのあまのあまのあ

あまのあまのあまのあまのあ

あまのあまのあまのあまのあ

あまのあまのあまのあまのあ

あまのあまのあまのあまのあ







つわらぬもよしのきよよそをえにん

かゝるにせよせよせよせよせよ

あはれなるにせよせよせよ

いふにせよせよせよせよせよ

うらやまにせよせよせよせよ

さかすかにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

いふにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

いふにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

いふにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

いふにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

いふにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

いふにせよせよせよせよ

あはれにせよせよせよせよ

いふにせよせよせよせよ



あいらちも神よらあ一柱のま

こま神め整りまあわ一ま

あねのあ風懐旧まあまあくまありあまら

神よらあ一まあらあまのまあまらあ

我まらあまあまはまらあまらあ

まらあまらあまらあまらあ

まらあまらあまらあまらあ

あわまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ

あまらあまらあまらあ















あつみとせしとねさうとねのそらまうかうや

釈の 後成心

しーちふくくー乃いかりのそら乃ぬま

なごころうへそ山はくそまを

このころふわかくこまのいかりそあを被ぬ  
くぬくうぬまう乃ぬまあやあそ思ひのこ  
かこなりさまう庵山のひーそそ福さあまこ  
海のそこようひゆるわや山りこさひらり  
ひごふりそよそなとそまらりあつゆん  
今ことりあうぬ方よそにそそまらり  
まゆれこ乃こふん人の心あそんさいつり

みわらぬまは自讃あつ時を八十さいや揚あ

てを入るつうぬを後成心子載集よ入るゆい

つと亦八ふく右と集と集後よお傳もあるゆま

はゆりありおをさんさうあそらんあやうそを

のそそあらんあやうのそと庵山乃ぬの釈さう

わん乃ららばゆとらんそらそれそれそ

まのゆをうをゆまそそそあそあそあ

日ゆまうそよりと被そそひひま

や井乃月のこゆあわりせ

あれそそまのゆくに抱つりあうなりてそ

抱あられならこゆのゆまそあ乃月を大















と世に世にまゝなるものなりけりいふもつらよわれ  
えうひめつたりいふもつらよわれ

皇太后宮大主後女

むめ乃花あつたふつとむむいあ

おろいかにこのまれ東の月

あつちなふゆめとむむいあつち中

あつち花のよほいな乃父のまむいあ

あつちなまむいあつちいあ

あつちいあつちのあつちいあつち

あつちいあつちを撰いあつちいあ

あつちいあつちのあつちいあつち

御后と人もあり通具あなり

おろいあつちいあつちいあ

あつちいあつちの御あつちいあ

あつちいあつちあつちあつちいあ

あつちいあつちあつちあつちいあ

あつちいあつちあつちあつちいあ

あつちいあつちあつちあつちいあ

あつちいあつちあつちあつちいあ

あつちいあつちあつちあつちいあ

あつちいあつちあつちあつちいあ

あつちいあつちあつちあつちいあ











又あり種よしの作は乃らりてとてしつゝしとて  
山道のさして秋よきもえぬは秋道のよき雅治  
ありしこの下句と作くは國くによしと句とよきを  
くありをくは後ちかのこのあはれもくはえはち  
ふれはくはし地なるあはれよきはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくはくはくはくはくは  
あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは  
あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

花さそくひりりしうをぬきりり

くはくはくはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは

あはれよきはくはくはくはくはくはくはくは











ゆつさるより 松阿のりさけり あり

あぬ松の流しと進そとくうまこり

じまふさり乃山の井者あり

網涼のこみ松なりおりしりくまぬきあり

あま涼よあまは松涼といふんあり

松海より乃月よこり思とくうるる流

松あつしとくもあつしぬく松よ

あつ松六太よこの月乃ひさりやうよ松ふとゆ

まよよんまむ松あつしとくもあつしぬく松よ

まよ松はくしとく思とくこの月乃松りや松の

風まのあま松よあつしとくもあつしぬく松よ

まよ松はくしとく思とくこの月乃松りや松の

あつ松六太よこの月乃ひさりやうよ松ふとゆ

まよよんまむ松あつしとくもあつしぬく松よ

まよ松はくしとく思とくこの月乃松りや松の

あつ松六太よこの月乃ひさりやうよ松ふとゆ

松まのこおしんあつしとくもあつしぬく松よ

こま松よにけらわりはをの月

んまあつしとくもあつしぬく松よ

や松海しゆら松又何時まつしよ

松くわししよ松のあま乃ぬき

松よまわわわらむ



海も深きとていふ程のあかりあはれなる  
ひかりあはれなる神よあはれなる  
乃のりよ

物おほなることばはつこのまゝに  
めづるはあはれなることば

あはれなることばはつこのまゝに  
とていふことばはつこのまゝに

あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに

あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに

あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに

あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに

あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに

あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに

あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに  
あはれなることばはつこのまゝに



つらきあそびはつらきものなり

あつらひおもしろきものなり

神よ志くらさぬまはるき風

この世はつらきものなり

いひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

定む

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり

あつらひおもしろきものなり



とておぼしきありはらなり

いぬとめて神うららぬきもま

ころいまりの言書格ふり

まん  
あまよらうーくもくゆりらるぬらみよさ

このいまらよあまあうあふさうあをせ

つて神うららうきもあーく入ぬとあう

かてありこのことわうをさうらふらふと

いりふらううやまうもあふのたうはうい

まくの句思ひ入てはる人まよ

わら後よ今あうあまうふらあふら

あまうきもあーくわうまうらうらう

ゆりあまうくも格う格入の言はうらう格

うらきふらうまもまあわいーはうら

松うまうらうらあまのうらう

わうり神ぬく神者うら

うらうまうらうらうらうの役なりえう

ひらうらうらうらうらうらうらうら

と思ふらうのうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらう

わうらうらうらうらうらうら

おらうのうらうらうらうら



いしころの法正庵はあつゆはしゆを  
 たふこの山を急とらふとてゆめを毎日こ  
 りてふらふは毎日又このゆめをゆりてふ  
 ありそめいふゆめおそろふとて思ふゆめ入  
 りゆめのゆめ人のゆめをゆりてふゆめ  
 とらふゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 とおもふゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 といふゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 又東二解乃後よとまはゆめゆめゆめゆめ  
 といふゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 思ふ人なゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 といふゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 人のこらむゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

かゝるこのゆめゆめ人のなむゆめゆめ

ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

心るわささううなるゆめゆめゆめゆめゆめ

そまゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

なとゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

あまゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ















とくかきつきて後わりあへし又納涼の夜よしの  
物ふいといふ後ありと為るなり

わさめはむかしよひのくさくさ

月乃もこのあまのこころ

月の影はあまの影のこころのこころ

うさぎはあまの影のこころのこころ

よわなはあまの影のこころのこころ

あまの影はあまの影のこころのこころ

乃ぬくもあまの影のこころのこころ

ゆきもあまの影のこころのこころ

下もあまの影のこころのこころ

あまの影はあまの影のこころのこころ

こ乃ぬくもあまの影のこころのこころ

のこころはあまの影のこころのこころ

くさくさはあまの影のこころのこころ

あまの影はあまの影のこころのこころ

うさぎはあまの影のこころのこころ

よわなはあまの影のこころのこころ

あまの影はあまの影のこころのこころ

あまの影はあまの影のこころのこころ

あまの影はあまの影のこころのこころ

あまの影はあまの影のこころのこころ























なまじりやさひありと色づききむ  
とくろ乃屋との杖乃ゆかり

はしこころりありとくろ乃ゆかりと色づききむ  
くまのさひありと色づききむ  
りたり杖をぬきかきするくろ乃ゆかり  
さりのさくら乃着よ若竹のさひありと色づききむ  
てやと色づききむとくろ乃ゆかり

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかり  
なまじりやさひありと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ  
なまじりやさひありと色づききむ  
くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

かきまきくぬるこの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ

くろ乃ゆかりの杖乃ゆかりと色づききむ



多くあつた家なぬいさなをちりり乃とよ入  
 せらふくくさうひをちり思行う一あまの  
 ことよみくさうひをちり思行う一あまの  
 いふよしをゆめいさう珠きりあまの  
 又あまゆよりさうひをちり思行う一あまの

始乃多とさうひをちり思行う一あまの

月のうらなよまのうらな

ひささ此月若ひりあまのうらなよまのうらな  
 のちをひりあまのうらなよまのうらな  
 ら乃家よまのうらなよまのうらな  
 又同骨のあまのうらなよまのうらな

けしきくさうひをちり思行う一あまの

かせくさうひをちり思行う一あまの

あまのうらなよまのうらなよまのうらな  
 ききくさうひをちり思行う一あまの  
 本の下乃あまのうらなよまのうらな  
 本よまのうらなよまのうらなよまのうらな  
 のひをちり思行う一あまの

かせくさうひをちり思行う一あまの

かせくさうひをちり思行う一あまの  
 かせくさうひをちり思行う一あまの  
 かせくさうひをちり思行う一あまの







しんがみくはな〜

これ神の神ははむやう〜

杖うせうき〜

蛇うさの風あられぬ〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜



乃多き事なりとて分れあはれしるすも  
 う精はまきとてあはれなりとてまよき  
 こととていふは他方の心はまき  
 うまきこととていふは今  
 うまきこととていふは今  
 うまきこととていふは今

後撰のあはれなりとて分れあはれしるすも  
 う精はまきとてあはれなりとてまよき  
 こととていふは他方の心はまき  
 うまきこととていふは今

あひ乃あめらもあはれなりとて分れあはれしるすも  
 う精はまきとてあはれなりとてまよき  
 こととていふは他方の心はまき  
 うまきこととていふは今

あひ乃あめらもあはれなりとて分れあはれしるすも  
 う精はまきとてあはれなりとてまよき  
 こととていふは他方の心はまき  
 うまきこととていふは今











いづよもこの地志乃あ八そまのあまのいづく  
をさひくまき本紫のりさほをせんこいあそ行  
今あんと紫のりさほをせんこいあそ行

こ乃たつ終の月をせんらん

此の月よがと紫のりさほをせんこいあそ行

は八月よあんとあまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく

あまのいづく







あつはゆよぬゆ二度末海城のそと乃しや  
しとちりぬう、美進なり

風よるひくうー乃そちのめいふんそん

ゆいそちもあつぬまうおちひりうぶ

と乃しとちりあつうううなり

ゆいそちひりうそちとちんあも

くゆーそちとちりーあつそん

あつもこゆを海さううなり

ゆー野山ゆーあつとちとちり

とちりりなりとちりやあつらん

こ乃うしとちりあつううなり

此十巻ゆいそちい乃まゆいそちういひ

えうもさひゆそちんぬうそちのあ

人乃おちゆゆあつとちとちりあ

そちのあつあつとちりあつとちり

ゆいそちゆゆゆゆゆゆゆゆ

右一冊ハ或人又ゆ廿六乃ものこちゆひ

予よあつらうあつ起しゆへりあつ志切

しとちりあつゆゆ乃あつとちりあつ

ゆりあつゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ



拾めく見あふふ

宗紙在判

又四十六年東舟中旬

*[Faint handwritten text in the right margin]*

論語集解

魏何晏

二冊

孟子上古註

後漢趙岐

七冊

老子古註

魏王弼

一冊

同國字解

東山子

五冊

周易古註

魏王弼

五冊

同 無矣

二冊

三義疏

梁皇侃

十冊

詩經古註

漢毛萇傳 全鄭玄箋

卅冊

同國字辨

田子龍

四冊

拾機算法

鳳岳先生

六冊

南番別志

物茂卿

五冊

同是正

楚雅亮

一冊

中學算法

青山利水

一冊

倭漢帝王年表

大宰德夫

六冊

田間謾錄

垣内鼎輔

一冊

玉山先生詩集

秋子羽

六冊

墨子全書

明茅坤校本

六冊

四書五經字引

一冊

同 遺稿

同

六冊

近思錄便蒙詳說

梁田勝信

廿六冊

字彙玉篇大成

一冊

嚶鳴館詩集

紀世馨

六冊

易學啓蒙全解

同

十二冊

詩學小成

千葉子玄

四冊

右

千鍾坊藏梓儒書畧目錄

江都日本橋南一町目 京師柳馬場四條下

須原屋茂兵衛



